

学校名	東根市立大富小学校			実践者	井澤 貢
学年	6年	教科	外国語	単元名	Unit7 『My Best Memory』
本単元の目標	小学校生活の思い出などについて、短い話を聞いて概要が分かったり、伝え合ったり、話したりすることができる。例文を参考に文を読んだり、自分のことについて書いたりすることができる。				
プログラミング的思考とのつながり	フォローチャートを利用して、考えを整理し、プレゼンテーションの展開を考えることを通してプログラミング的思考を育成することができる。また、自分の伝えたいことを表現するために、ICT 機器が有効であることを実感し、適切に活用できるようになる。				
使用機器 ツール 教材 ネットワーク	使用機器		学習用ツール (アプリ, ソフトなど)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 大型提示装置 <input type="checkbox"/> 実物投影装置 (書画カメラ) <input checked="" type="checkbox"/> 学習者用コンピュータ (児童生徒用) <input checked="" type="checkbox"/> 指導者用コンピュータ (教員用) その他 ( )		・ PowerPoint		
		<input type="checkbox"/> ネットワーク利用		<input type="checkbox"/> 学習者用サーバ利用	
		<input type="checkbox"/> その他 ( )			
本単元の展開 (活用のポイント)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの「Unit5 『We all live on the Earth』」「Unit6 『Let's think about our food』」を通して PowerPoint の基本的な操作について段階的に学習する。            (学習段階) Unit5…PowerPoint の基本的な仕組み, 画像の貼り付け            Unit6…アニメーションの利用, 図形 (吹き出し) の挿入</li> </ul>				
および	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学習した表現について確認し, フォローチャートを活用して, 自分のプレゼンテーションについてどのように展開していくか考える。</li> </ol>				
児童の学びの様子 (☆)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この活動を通して, フォローチャートで考えを整理したり, 展開を組み立てたりすることの良さを確認する。</li> <li>☆前時からフォローチャートを活用してきたことや, 教師がモデルを示したことにより, 子どもたちはプレゼンテーションの展開を論理的に組み立てることができた。</li> </ul>				
	<ol style="list-style-type: none"> <li>2 プレゼンテーションを作成する。</li> </ol>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校で保存していた行事の画像や, 子どもが持参した画像などから子ども自身が自由に選択できるようにしておく。</li> <li>☆吹き出しやアニメーションなど, 前時までの学習を生かす姿が多くあった。</li> <li>☆自分自身のことを効果的に表現しようと, 一人ひとりが主体的に活動していた。発音や表現についてわからないことは調べたり, ALT に聞いたりする姿が多くあった。</li> <li>☆発表に活用するためにイラストを web から検索したり, フォルダから必要な画像を一人ひとり選んだりすることができた。</li> </ul>				
	<ol style="list-style-type: none"> <li>3 プレゼンテーションをもとに練習する。</li> </ol>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ALT や他の児童にも伝えることを意識して, 発音と PowerPoint の展開を検討させる。</li> <li>☆わからない単語や文章を自ら聞いたり, 教え合ったりする姿があった。</li> </ul>				
	<ol style="list-style-type: none"> <li>4 プレゼンテーションを発表する。</li> </ol>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表を聞くときの子供達の観点は「発音」「プレゼンテーションの利用」「内容の充実」</li> <li>☆他の児童の発表についても意欲的に聴くことができた。</li> </ul>				
実践を通しての考察	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器を用いることで, 編集や保存が容易になり, アナログよりもプレゼンテーションの展開や英語の表現について力をいれて学習に取り組むことができる。</li> <li>・個別の端末を用いて活動・発表を行うので, 子ども同士で十分な距離を保つことができ, 感染症予防に留意した学習活動を行うことができる。</li> <li>・1人1台で端末を用いた学習にしたことにより, 自分のペースで活動に取り組むことができ, 分からない時には周囲と教えて合って課題解決に向かう様子があった。</li> <li>・「自分の伝えたいことがみんなに伝わった」というコミュニケーションにおける達成感を味わうとともに, ICT 機器の有効性について実感することができた。</li> <li>・キーボード操作で英文を打ったり, プレゼンテーション見せながら英語で伝え合ったりする活動に取り組むことで, 学習内容の習熟・活用につながった。</li> </ul>				

